

2024 年 12 月 3 日

当社工場見学会関連報道のご紹介

当社にて 11 月 10 日（日）に開催した工場見学会について、当日取材いただいたマスコミ各社の報道を以下および添付にてご紹介致します。

当社は、会社基本方針のもと引き続き ESG（環境・社会・ガバナンス）の取組を推進し、地域社会との連携を強化してまいります。

1. 11/12（火）朝日新聞

<https://www.asahi.com/articles/ASSCC4FXNSCCTOLB008M.html>

2. 11/14（木）NCC 長崎文化放送

<https://www.ncctv.co.jp/news/article/15508608>

3. 11/15（金）長崎新聞

<https://www.nagasaki-np.co.jp/kijis/?kijiid=04d46fccc042408f9b756d62edcb7728>

4. 11/17（日）西日本新聞

添付ご参照ください

以 上

大型船の仕事 間近に

佐世保重工工業
7年ぶり見学会

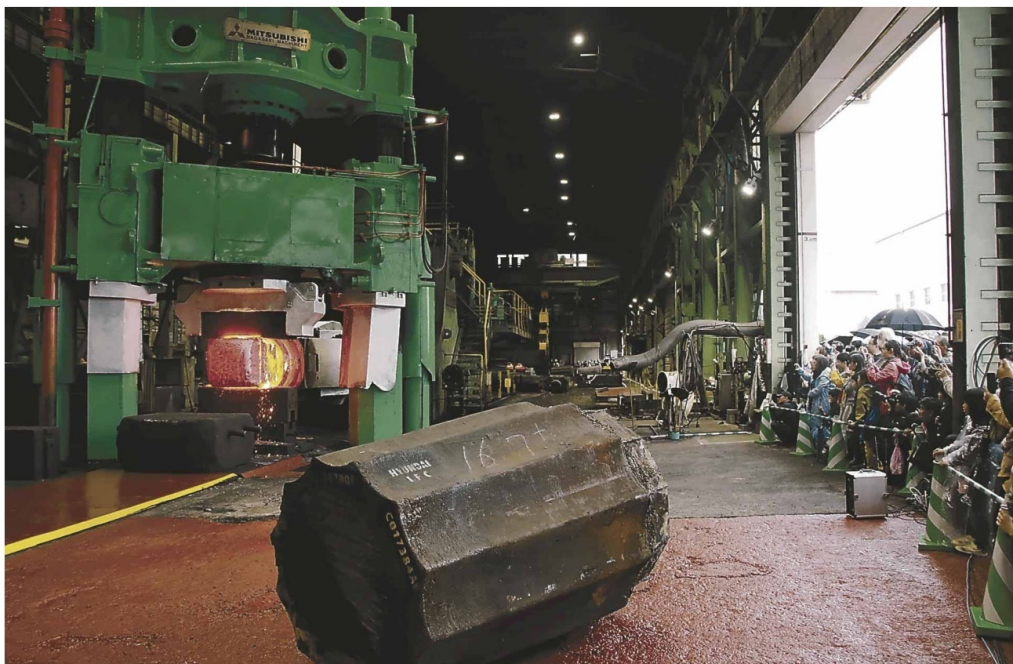
部品製造、ドック注水：
参加3000人超

佐世保海軍工廠（いしづか）の設備を生かして1946年に創業した「佐世保重工業」（SSK、佐世保市立神町）の工場見学会が、今月10日に開かれた。同社はかつて世界最大のタンカーを建造し、現在は艦艇や商船の修繕、船舶機械の部品製造の2事業を展開。3千人超の来場者は雨の中、地域経済をけん引するものづくりの現場に見入った。

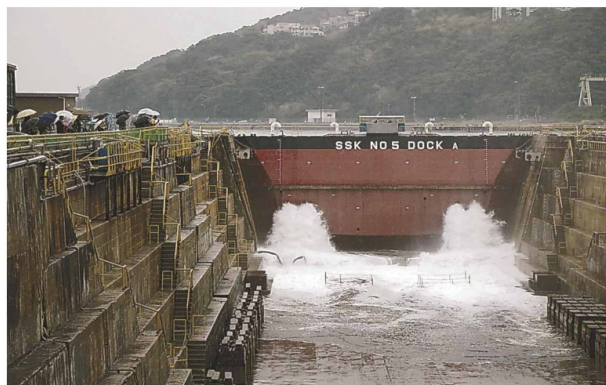
佐世保湾岸に53万8千平方メートルの広大な敷地、5基のドックを保有するSSK。62年に当時世界最大のタンカー「日章丸」を建造した第4ドックは、長さ400メートル、幅57メートル、深さ15・6メートルの規模を誇る。

2014年に名村造船所（大阪市）の傘下に入り、22年に新造船の建造を停止して以降、この第4ドックも修繕に用いられている。見学会は新型コロナウイルスの影響などのため7年ぶり。担当者は「市民や従業員に感謝を伝え、子どもたちの船舶事業に対する関心を高めて雇用にもつなげたい」と説明した。

来場者は工場内を循環パスで移動。東側エリアでは、熱した合金をプレス加工してエンジンのパーツを作る工程や、ドック内に海水を引き込む作業を見守った。西側エリアの第3ドックでは大型クルーズ船「飛鳥



船のエンジン部品の製造工程を見守る来場者ら



来場者が見守る中、海水が満たされていく第5ドック

Ⅱ」を眺め、溶接作業のほかに、滑車と鎖を使えば90度の重りを持ち上げられることなども体験。同市の檣崎結珠さん（16）は「重かったのに、（道具を使えば）軽くなって楽しかった」。母は大型船も見ることができて良かった」と笑顔だった。（古川泰裕）